

元祖大師法然上人御法語

会者定難は常の習い今始めたるにあら
ず何ぞ深く歎かんや宿縁空しからずば
同一蓮に坐せん浄土の再会甚だ近きに
あり今の別れは暫くの悲しみ春の夜の
夢のごとし信謗とも縁として先に生
まれて後を導かん引撰縁はこれ浄土の
楽しみなり それ現生すら猶も疎か
らず同名号を称え同一光明の中にあり
て同聖衆の護念を蒙る同法尤も親し愚
かに疎しと思し食すべからず 南無阿
弥陀仏と称え給えは住所は隔つといえ
ども源空に親しとす源空も南無阿弥陀
仏と称えたてまつるが故なり念仏を緯
とせざる人は肩を並べ膝を与むといえ
ども源空に疎かるべし三業みな異なる
が故なり

露の身はここかしこにてきえぬともこ
ころはおなじ花のうてなぞ

為

令和 年 月 日

ふり
氏

かな
る

浄写